

岡倉天心
生誕150周年 没後100周年 記念



天
心

復興支援映画

上映会のお知らせ

竹中直人 平山浩行 木下ほうか 橋本一郎 中村獅童
渡辺裕之 温水洋一 本田博太郎 キタキマユ 神楽坂恵 城之内正明 石黒賢 (友情出演)

脚本：我妻正義・松村克弥 撮影：瀬川龍 美術：池谷仙克 編集：川島章正 音楽：中崎英也
プロデューサー：星加正紀・河本隆・木下裕二 制作：マウンテンゲートプロダクション 配給：マジックアワー
エグゼクティブ・プロデューサー：宮本昭行・宮本澄江
主題歌：石井竜也 監督：松村克弥

松村監督
舞台挨拶
参加予定

題字 川又南岳 / アートディレクター 藤代範雄

平成29年7月30日(日)下妻市民文化会館大ホール
【午前の部】開場9:30・上映10:30 【夕方の部】開場16:30・上映17:30
観覧するには往復はがきでの申し込みが必要です。詳しくは裏面をご覧ください。
主催：下妻市、下妻市教育委員会 ☎0296(45)8996 (生涯学習課文化係)

入場無料



信じる 日本を、その先にある光を

日本の近代美術に大きな足跡を残した岡倉天心の生誕150年・没後100年。

本作品は、明治という時代にあって日本の美を『再発見』し、新しい美を生み出そうと苦闘する天心とその弟子である若き画家たち——横山大観、下村観山、菱田春草、木村武山——の葛藤と師弟愛の物語です。



©2013映画「天心」製作委員会

「東日本大震災」により六角堂が流失！

撮影準備中の二〇一二年三月

十一日、東日本大震災の大津波により、天心が思索に耽った北茨城市・五浦海岸にあつた貴重な文化遺産「六角堂」も流失し、海中へと没しました。

主要なロケ地である茨城県は甚大な被害を受け、映画化も危ぶまれましたが、一日も早い復興のシンボルとするため、県内の行政、大学、企業、美術界、市民団体などで構成される映画「天心」実行委員会が立ち上がり、六角堂の再建や当時の姿を忠実に再現した日本美術院オープンセットの建設、ロケへの全面協力などの支援を受け、二〇一二年末に無事撮影が完了しました。

さらに、北茨城市出身の石井竜也さんには、映画「天心」の企画当初から全面協力いただき、主題歌をご提供いただくことになりました。

二〇〇年前に「クールジャパン」を創った男たちの魂の物語

明治初期、廃仏毀釈の嵐が吹き荒れ、寺が焼かれ、仏像が破壊される中、若き天心はフェノロサと共に伝統ある日本美術の保護に奔走していた。

その後、東京美術学校（現在の東京藝術大学）の校長に就任。横山大観、下村観山、菱田春草ら若き才能の育成に尽力するなど、美術界のエリートコースを歩んでいたが、西洋画派との対立により、辞任に追い込まれる。

天心は、彼を慕う大観ら弟子たちと共に新たな日本画の創造を目指し日本美術院を立ち上げるが、彼らの画法に対する国内での評判は芳しくなく、経営難へと陥ってしまう。

新天地を求め、天心は茨城県五浦海岸に六角堂を建立。

その翌年、ここに日本美術院を移転し、大観、春草、観山、木村武山らと移り住み、壮絶な創作活動に没頭して行くのであったが…。



【応募方法】締め切りは平成29年6月16日(金) 必着

下記の通り、郵便報復はがき（私製を除く）でお申込みください。

※応募はお1人様1通限り、応募者多数の場合は抽選となります。

※抽選結果は、申込者全員に返信はがきにて6月下旬にお知らせいたします。当選はがきが入場整理券となり、1枚につき2名様まで入場できます。

【往信面】	【返信面】	【返信面】	【往信面】
<p>304-8555 下妻市教育委員会 生涯学習課文化係</p>	<p>(白地)</p> <p>抽選結果を印刷しますので、何も記入しないでください。</p> <p>(返信の裏面)</p>	<p>〇〇県〇〇市〇〇町 〇〇〇番地〇〇 〇〇〇〇様 (ご自分の住所・氏名)</p>	<p>①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④電話番号 ⑤希望する上映時間 A 午前の部 B 夕方の部 (希望する時間をご記入下さい。)</p> <p>⑥希望する人数 A 1名 B 2名 (希望する人数をご記入下さい)</p> <p>(往信の裏面)</p>

個人情報、抽選及び発送以外の目的には使用しません。

注意事項: 記載内容に不備がありますと返信できない場合があります。また、往復はがき以外での応募は無効となります。

問合せ先: 下妻市教育委員会生涯学習課(文化係) ☎0296(45)8996